



2020年8月

東武鉄道株式会社

2021年3月期第1四半期決算 電話会議 主な質疑応答

【業績予想 前提条件】

今後の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症の収束については予断を許さないものの、再度の緊急事態宣言の発出等により社会的制限が実施されないことを前提としております。当社グループへの影響は段階的に収束へ向かいながらも、新しい生活様式を踏まえた企業や個人の行動の変化による影響は当連結会計年度末まで一定程度残るものと仮定いたしました。

(運輸事業)

● 鉄道業

- ・定期について、通勤は9月までに対前年度▲10%程度まで回復、10月以降はその水準が継続。通学は9月までは対前年度▲50%、10月以降は前年度の水準に回復。
- ・定期外は3月までに対前年度▲7%程度に回復。

(レジャー事業)

● ホテル業

主要ホテルにおいて9月までに対前年度▲70%、3月に対前々年度▲50%水準に回復。

● スカイツリー業

9月までに対前年度▲60%、3月に対前々年度▲40%水準に回復。

(不動産事業)

● スカイツリータウン業

9月までに対平年度▲40%、3月までに対平年度▲20%水準に回復。

(流通事業)

● 百貨店業

10月以降ほぼ前年並みに回復。

※本内容は、書き起こしではなく、電話会議での質疑応答の内容を弊社にて簡潔にまとめたものです。あらかじめご了承ください。

Q. 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い各セグメントいずれも厳しい状況にあるが、事業ポートフォリオの組み方について、どのように再構成すると考えているのか。

A. 今年度については不確定要素が多い。まずは事業の継続を最優先と考え、その後どの事業がグループのコアになるのか見定めて、事業ポートフォリオを検討していきたい。

Q. コスト削減について、第1四半期実績と通期でどの程度見ているのか。

A. 第1四半期の実績について、前年と比べ東武鉄道で物件費26億円程度削減を図った。通期では、連結で130億円程度のコスト削減を見込んでいる。

Q. レジャー事業その他が大きく減益のようだが、多少バッファを見ているのか、通期の予想方について教えてほしい。

A. レジャー事業について、旅行会社が12月決算であり、第3四半期現在の状況からも回復が厳しいため、旅行業で減益幅が大きくなっている。バッファを見ているわけではない。

Q. 資金について、上期中1,000億円調達すると聞いたが、足元はどうか。もし計画に変更あれば教えてほしい。

A. 資金について、東武鉄道単体として900億円のコミットメントラインを引いており、期首時点で残高200億、700億円のバッファがあった。足元ではそちらの枠の活用のほか、日本政策投資銀行からの借り入れや、シンジケートローンの組成を6月までに実施した。さらに、セーフティーネットとしてコミットメントライン新規枠を設定し、ほぼ1,000億円程度の資金の手当ては終了しており、来期までの資金的な担保はとれているとみている。

以上